

平成30年度 横浜国立大学大学院国際社会科学府
専門職学位課程 法曹実務専攻（法科大学院）

法学既修者コースA日程入学試験

刑事系科目

時 間 11:00～12:15

●注意事項（よくお読みください）

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 自分の受験番号と机の上の受験番号が同じであることをよく確かめてください。
3. 時計のアラーム、携帯電話等の電源は切ってください。
4. 机の上に置いてよいものは、①受験票、②筆記用具（鉛筆、ペン、消しゴム）、③鉛筆削り（電動式を除く）、④時計（携帯電話やPHSを時計として使用することは認めない）、⑤メガネ、⑥目薬、⑦ティッシュペーパー、⑧ハンカチです。これらは、予め机の上に置いておいてください。
5. 上記4で掲げた試験のために必要なもの以外は、かばんに入れて椅子の下に置いてください。電源を切った携帯電話も、身につけず、かばんに入れてください。
6. 配布物は、①問題冊子、②解答用紙、③下書き用紙、④六法の4種類です。足りないものがあったら、挙手で合図し、試験監督にその旨申し出てください。
7. 解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を記入してください。解答用紙は、全部で3枚あります。そのすべてに受験番号と氏名の記載欄がありますので、漏れなく記入してください。なお、解答用紙はホチキスで綴じられていますが、その針は外さないでください。
8. 試験問題は、問題1～3の3つがあります。必ず指定の解答用紙を使ってください。解答用紙はそれぞれ両面になっています。
9. 試験時間は、75分です。中途退席は原則として試験開始後40分まで認めません。また、中途退席者は、再度入室することができません。試験終了直前の10分間も退席できませんので、よく注意してください。ただし、気分が悪くなったときや、トイレに行く必要があるときなどは、近くの監督者に挙手で合図し、遠慮なく申し出てください。
10. 試験開始後、受験者本人であることの確認（写真照合）を行います。その際は、監督者にご協力ください。

以下の3問、問題1から問題3にすべて解答せよ。

(配点：全問とも50点)

問題1

XとAは、高級住宅街にあるB宅に強盗に入る計画を立て、まず小柄なAがB宅の窓をこじ開けてその窓から侵入し、内側からB宅のドアの施錠を外してXのために侵入口を確保するという形で行うこととした。

平成29年10月15日午前2時頃、当初の計画通り、AがB宅に窓から侵入した。しかしその後、B宅付近に人が集まってきたため、Xは、B宅内にいるAに携帯電話で電話をかけ、「人が集まっている。早くやめて出てきた方がいい。」と伝えた。Aは侵入した窓から玄関部分に行き、二重にロックがかかっているドアの施錠を外す作業を始めていたが、もう少しでドアの施錠が外れそうだったため、「もう少し待って。」とXに伝え、作業を続けた。

XはAに「危ないから待てない。先に帰る。」と一方的に伝えると電話を切り、付近に止めてあった自動車に乗り込み、B宅付近から立ち去った。

Aは、ドアの施錠を外すと一旦B宅を出たが、Xの姿が見えなかったため、Xが立ち去ったことを知った。しかし、AはB宅内に戻って強盗を実行し、その際Bに暴行を加え、Bを負傷させた。

Xの罪責を論じなさい(特別法については論じなくてよい)。

問題2

Xは、運転免許停止処分を受けたが、仕事上運転免許がないと困るため、実兄Aに相談した。Aは、「俺は免許証を持っているから、何かあったら、免許証は家に忘れたとって俺の名前を言っておけばいい。」とXに言った。

平成29年10月11日午後2時頃、Xは無免許のまま自動車を運転し、保土ヶ谷駅周辺で取締り中の警官Pから免許証の提示を求められた。Xは、「免許証は家に忘れてきました。」とPに言い、交通事件原票の供述書欄の末尾に、「A」と署名してPに提出した。

Xの罪責を論じなさい(特別法については論じなくてよい)。

問題3

おとり捜査の許容性について、関連する判例の趣旨を踏まえつつ、論じなさい。